

経営比較分析表（令和元年度決算）

石川県能登町 公立宇出津総合病院

法適用区分	業種名・事業名	病院区分	類似区分	管理者の情報
当然財務	病院事業	一般病院	100床以上～200床未満	非設置
経営形態	診療科数	DPC対象病院	特殊診療機能 ※1	指定病院の状況 ※2
直営	17	-	ド透I訓	救臨
人口（人）	建物面積（㎡）	不採算地区病院	看護配置	
16,972	10,703	第2種該当	10:1	

※1 ド…人間ドック 透…人工透析 I…ICU・CCU 未…NICU・未熟児室 訓…運動機能訓練室 ガ…ガン（放射線）診療

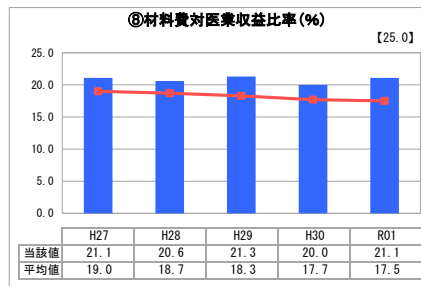
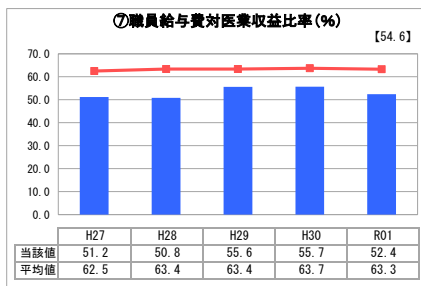
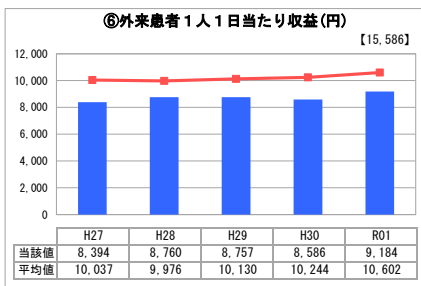
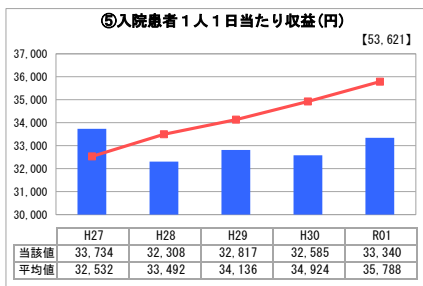
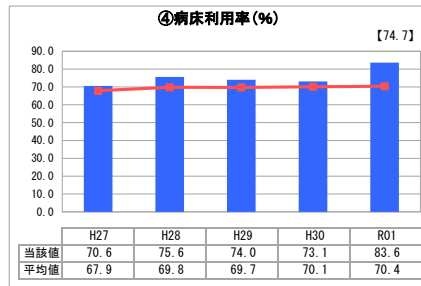
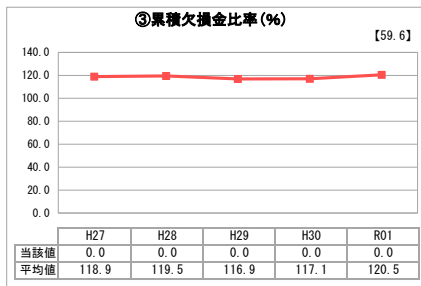
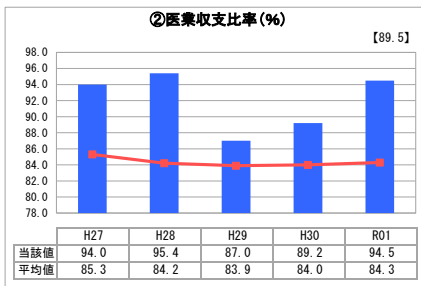
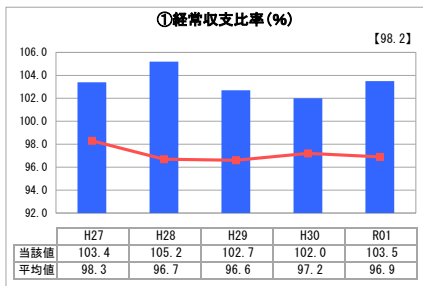
※2 救…救急告示病院 臨…臨床研修病院 が…がん診療連携拠点病院 感…感染症指定医療機関 へ…へき地医療拠点病院 災…災害拠点病院 地…地域医療支援病院 特…特定機能病院 輪…病院群輪番制病院

許可病床（一般）	許可病床（療養）	許可病床（結核）
100	-	-
許可病床（精神）	許可病床（感染症）	許可病床（合計）
-	-	100
稼働病床（一般）	稼働病床（療養）	稼働病床（一般+療養）
100	-	100

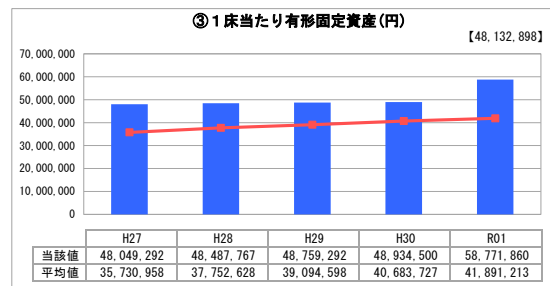
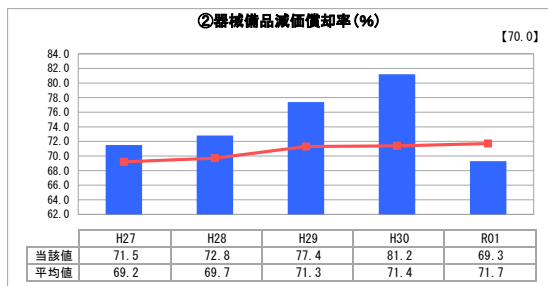
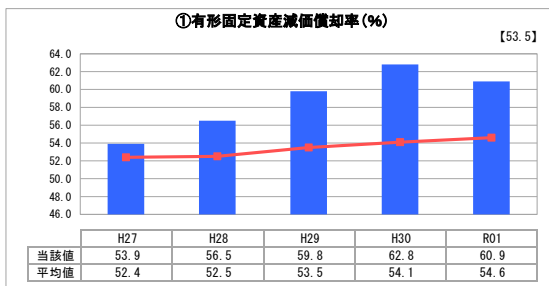
グラフ凡例

- 当該病院値（当該値）
- 類似病院平均値（平均値）
- 【】 令和元年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



公立病院改革に係る主な取組（直近の実施時期）

再編・ネットワーク化	地方独立行政法人化	指定管理者制度導入
-	-	-
年度	年度	年度

I 地域において担っている役割

地域医療の基幹病院として、可能な限り当院で完結できるよう取組み、対応しきれない重篤な患者様や、専門的な治療を要する患者様については3次救急医療機関と緊密な連携により、必要な治療を切れ目なく受けられるようにし、地域包括ケア病床に加え、訪問診療や訪問看護で患者様をサポートし、都市圏から遠く離れていても、可能な限り格差のない医療の提供を行う。

II 分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

令和元年度は経常収支比率、医業収支比率、病床利用率、材料費対医業収益比率は、類似病院平均値より高く、入院患者及び外来患者1人1日当たり収益、職員給与対医業収益比率は、類似病院平均値より低い。また累積欠損金はなく、経常収支比率も100%を維持していることから、令和元年度の経営の健全性や効率性は保たれていると考えられている。令和元年度は病床数を100床に変更し病床利用率が10.5%増となった。また職員3名の減で給与費101,671千円が減少し職員給与対医業収益比率が3.3%減少した。また入院及び外来患者1人1日当たりの収益も昨年度より向上した。

2. 老朽化の状況について

1床当たりの有形固定資産については、当病院は平成2年度に病床数188床として改築され、その後減床しながら、令和元年度は100床となった。そのため1床あたりの有形固定資産は、全国平均や類似病院平均値より高くなっている。また改築から29年経過しており、有形固定資産減価償却率は、全国平均や類似病院平均値より高い。令和元年度は電子カルテシステムを更新したことから、機械備品減価償却率が11.9%減少したが、有形固定資産の老朽化は依然進んでいる。今後も計画的な施設改修や器械備品の更新に取り組んでいく。

全体総括

令和元年度の経営状況は、昨年度よりも健全であったと考えております。しかし当病院の患者様の9割近くが能登町民であるため、入外来患者数は、能登町の人口に大きく左右されており、患者数は昨年度より全体で3,093人が減少した。今後も患者数は減少していく見込ですが、地域の基幹病院として「医療・保健・福祉」の総合的なサービスと格差のない医療の提供を行うため、必要病床数を検討し、医師、看護師、薬剤師の人材確保、計画的な施設改修、器械備品の更新に今後も取り組んでいきます。

※「類似病院平均値（平均値）」については、病院区分及び類似区分に基づき算出している。